

新たな時代に向かって 誇りある まちづくり

3月1日、市議会3月定例会議で近藤市長が平成31年度の施政方針を表明しました。

今号では市政運営の基本的な考え方と主要施策の内容を抜粋して紹介します。



5月には、改元により新たな時代がスタートします。

安来市は、戦国時代に山陰山陽に大きな勢力を広げた尼子氏の本拠地として、また、明治・大正・昭和時代に至るまでハガネ流通の拠点港として、経済的にも文化的にも大いに栄えました。

新しい時代の「安来市」も市民の皆さんが我がまちに「誇り」を持っていただけるようなまちづくりをしていきたいと考えています。そのため、これまで新安来庁舎、総合文化ホール「アルテピア」、中海ふれあい公園、切川バイパスなど都市にふさわしい将来を見据えた基盤整備を進めてきました。

また、月山富田城跡や日本遺産「出雲國たたら風土記」、民謡安来節、足立美術館、清水寺などの地域資源を生かした取り組みやアルテピアでの多彩なイベント、教育・福祉・産業振興の先進的な取り組みを進めています。こうした取り組みは、周辺から注目を受けています。

日本海側有数の圏域の中でも存在感があり、豊かさを実感していただけるようなまちづくりにより、「誇り」を持っていただけるよう、今後ともハード・

ソフトの両面でまちの更なる充実を図っていきます。

さらに、最大の課題である人口減少への対策は「安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を掲げて、「結婚・出産・子育て支援」、「産業振興」、「住環境向上」、「魅力的な地域形成」、「広域連携」からなる施策に全力で取り組んでいます。平成31年度は、総合戦略計画期間の最終年度にあたります。引き続きこれらの5つの施策を軸として自然減・社会減を抑制し、出生率向上と働く場の確保、快適な居住環境づくりを着実に進めていきます。

平成31年度の

予算編成

平成31年度予算編成にあたっては、引き続き第2次安来市総合計画将来像の実現に向けた取り組みを重点的かつ着実に進めます。

一方で、中期財政計画を踏まえ、費用対効果・事業規模・実施時期や終期の設定等を検証します。また、厳しい財政状況を職員一人ひとりが認識するとともに、緊急性、必要性の高い事業を最優先し、予算措置を行いました。



子育て・教育 文化分野

●不妊治療・子ども医療・新生児聴覚検査・予防接種費用助成・つどいの広場・親子交流センター事業など妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を引き続き実施します。

●保護者が安心して就労できる環境を整備していくため、放課

後児童クラブの運営委託先を社会福祉法人等へも拡大するなど、充実に努めていきます。

●平成32年度からの順次全面実施となる新学習指導要領に備え、児童生徒のパソコン整備および、無線LAN環境整備を行います。また、大型提示装置の配備等のICT環境の充実に努め、情報活用能力の育成を進めてまいります。



▲小学校などでは、ICT（情報通信技術）化が進んでいます（写真は電子黒板）。◀夏に行われるイングリッシュキャンプ。園児や小中学生などの子どもを対象に行います。会話は全て英語を使います。▼島根県指定文化財並河家の改修状況。



●外国語活動や外国語科の授業を見据えて、外国語指導助手を増員し、児童生徒の「使える英語」の習得を目指します。

●経年劣化により老朽化が著しいスクールバスの車両更新を行い、児童の通学環境を整備するとともに、安全な運行管理を継続して実施します。

●学校給食は、十神、飯梨、能義、南、宇賀荘の小学校のセンター方式給食への移行に向けた整備を行います。

●学校・家庭・地域の三者が互いの取り組みや教育力を補完し合い、郷土愛の醸成につながる活動を展開していきます。

●安来運動公園庭球場など体育施設改修工事をはじめ市民が日常的にスポーツに親しむことができる環境づくりを計画的かつ着実に推進していきます。

●安来港の繁栄を今に伝える指定文化財の並河家・原本家保存修理の支援や加納美術館の展示室改修設計など保存や活用できる環境整備を進めます。

保健・医療 福祉分野

●平成31年度から3歳児健康診査で、視能訓練士による視力検査を新たに実施し、視覚異常の



▲市立病院まつりでは、体験ブースなどを設け、病院業務を紹介しました。

早期発見・早期治療を目指します。

●医学生・看護学生等奨学金制度の対象に薬学生を追加します。これにより地域医療を担う医師や薬剤師、看護・介護分野の人材確保を目指します。

●市立病院においては、経営改善と整備に係る検討を行い、将来にわたり持続可能な医療提供体制の構築を図っていきます。

●高齢者が住み慣れた地域で尊厳を持ち安心して暮らすことができるよう介護・医療・住まいの生活支援サービスを充実させます。また、介護予防のさらなる充実のため、住民が主体となつて実施するミニサロンなど通いの場の拡充や生活支援ボランティアの養成などに取り組んでいきます。

産業・観光
雇用分野

●生産基盤の強化のため、大塚・安田・宇賀荘第三・吉田地区に加え、下山佐地区の大区画ほ場整備を進めます。

●近年の豪雨を踏まえ、下流域に影響を及ぼす恐れのあるため池の廃止など、防災・減災事業を進めます。

●「就農・定住パッケージ事業」では、新たに2棟の建設を

予定。Uターンによる新規就農者の誘致および定住の促進を図ります。

●地域共同による農用地、農用施設等の地域資源および農村環境の保全並びに農業用施設等の長寿命化を推進します。

●森林環境譲与税を財源として、「新たな森林管理システム」業務を支援する新たな組織を市で設置し、経営可能な山林の集積を図ります。また、それと同時に未間伐林など管理がされて



▲安田地区のほ場整備の様子。この地区ではコメのほか、大豆やアスパラガスなどの栽培が予定されています。市内のほ場整備は西日本屈指の規模で、全国から注目を集めています。

いない森林の解消を進めていきます。

●「安来旅」の魅力となる清水寺・月山富田城跡・足立美術館・さぎの湯温泉を中心としたコンテンツ企画や、各種プロモーションを進めていきます。また、今後さらに増加が見込まれるインバウンド対策事業等を安来市観光協会と連携して進めます。

●地域経済の健全な発展および雇用の促進を図るため、安来市の代表的な集積産業である特殊鋼関連産業等ものづくり企業における新製品および新技術の開発、取引拡大に向けた取り組みを支援します。

●企業の新設・増設等を支援するとともに、企業誘致に向け新たな工業団地整備を進めます。

●産業サポートネットやすぎや



▲市内インバウンドモニターツアーでの藍染め体験の様子。

創業支援アドバイザーにより市内事業者や創業希望者を支援することにより商工業を活性化します。

都市基盤分野

●安来木次線切川2工区、都市計画道路飯島線と安来市街地を東西に結ぶ市道安来港飯島線の拡幅改良を進めるなど道路・交通ネットワークの向上に努めていきます。

●市民およびUターン希望者等の定住を促進するため、家賃等への助成により子どもを育てやすい環境を整えます。

●公営住宅の長寿命化計画に基づき、老朽化した長谷津団地建替の基本設計等を行うなど良好な住環境の整備を進めます。



◀ 中海ふれあい公園の開園式の様子。遊具が設置してある子ども広場などは開園してから多くの方が訪れています。引き続き、市民が集う憩いの場となる公園整備を進めていきます。▶ 消防団の入団式で防火や防災への意識を高め、気持ちを一つにする団員たち。地域防災に大切な役割を担う消防団の活動を支援し、防災力の向上を図ります。▼ 荒島地区での地域ビジョン作りに向けたワークショップの様子。平成30年度は6つの交流センターががんばる地域おこし支援事業に取り組みました。今後も地域住民と一緒に進んで行く交流センターの活動を支援していきます。



● 中海ふれあい公園の平成32年度での完了を目標に、子ども広場、イベント広場、駐車場増設等の整備を行います。

防災・防犯分野

● 13mブーム付多目的消防ポンプ自動車を新たに整備することなどにより、各種の災害に迅速に対応できる体制を強化し、被害の軽減を図ってまいります。
● 更新計画に基づき消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ付積載車を導入するなど消防団体制の充実を図ります。

参画・協働 行財政分野

● 地域コミュニティの中核である地区交流センターを中心に、地域住民と共に地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた学習・実践活動を行い、特色ある地域づくりにつなげていきます。

● 「第2次安来市総合計画」の前期基本計画が平成31年度に終期を迎えることから、後期基本計画を策定します。

また、「安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の次期総

合戦略を総合計画と併せて策定し、一体的な市政運営を進めます。

● 安来市の文化、歴史、風土等を正しくかつ高度にまとめ、ふるさとへの誇りと愛着をもってもらう安来市史を刊行するため編さん事業に着手します。

● 中海・宍道湖・大山圏域を構成する5市で市長会を組織し、スケールメリットを生かした取り組みを展開しています。平成31年度は、「力強い圏域産業の国内外への発信」、「圏域インバウンド機構による観光地域づくり」、「圏域の更なる連携と協働の実現」の3つの柱を軸に、経済界などと歩調を合わせて取り組みを進めます。

● 日本から近く、安全かつ親日的であり、不安定な国際情勢の中でも安定的な交流が望める台湾との交流を進めていきます。

予算の概要は、次号で紹介する予定です。

